ボーリング柱状図

調　査　名　子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託

ボーリングNo	B	－	1							

事業・工事名

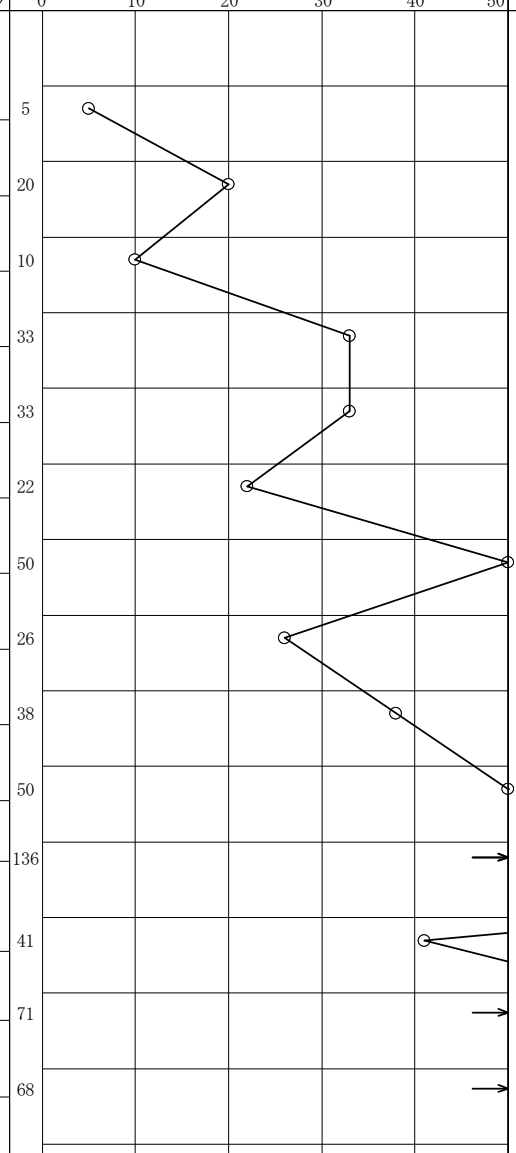
シートNo

ボーリング名	No.B－1	調査位置	桜町一丁目1193番地1					北緯	36° 9’ 03.3”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 6月 14日 ～ 3年 6月 16日			東経	139° 22’ 50.1”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H=29.931m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	15.42m								

試錐機	東邦地下工機製　D0－D	ハンマー落下用具	半自動落下型（野帳記入）
エンジン	ヤンマー製　NFAD8	ポンプ	東邦地下工機製　BG－3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	28.43	1.50	1.50		埋土(礫混じり砂質粘土)	暗褐		中位	礫混じり砂質粘土主体の埋土。 コンクリートガラやレンガ片を混入する。 粘り気は少なく，湿り気も少ない。 礫径はφ3～40㎜を主体とし，礫径φ100㎜以上の礫を点在する。	
2	27.53	0.90	2.40		礫混じり砂	暗褐	中位		細～中砂を主体とする。 水気は少ない。 礫径φ2～30㎜の礫を混入する。	
3					玉石混じり砂礫	暗褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40㎜の亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100㎜程度の亜円礫を混入する。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	
4										
5										
6										
7										
8										
9	20.93	6.60	9.00							
10					玉石混じり砂礫	暗褐	密な～非常に密な		礫径φ3～40㎜の亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100㎜程度の亜円礫を混入する。 上部礫層に比べ礫間が締まっている。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	
11										
12										
13										
14										
15	14.51	6.42	15.42							

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	2	5／30	5
1.45 2.15	6	7	7	20／30	20
2.45 3.15	5	2	3	10／30	10
3.45 4.15	9	11	13	33／30	33
4.45 5.15	15	7	11	33／30	33
5.45 6.15	6	8	8	22／30	22
6.45 7.15	20	16	14	50／30	50
7.45 8.15	10	7	9	26／30	26
8.45 9.15	10	11	17	38／30	38
9.45 10.15	15	19	16	50／30	50
10.45 11.15	39	11／1		50／11	136
11.26 12.15	13	15	13	41／30	41
12.45 13.15	22	23	5／1	50／21	71
13.36 14.15	19	25	6／2	50／22	68
14.37 15.15	16	18	16／7	50／27	56
15.42					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						6／14
						6／15
						6／16

ボーリング柱状図

調査名	子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託	ボーリングNo	B－2
事業・工事名		シートNo	

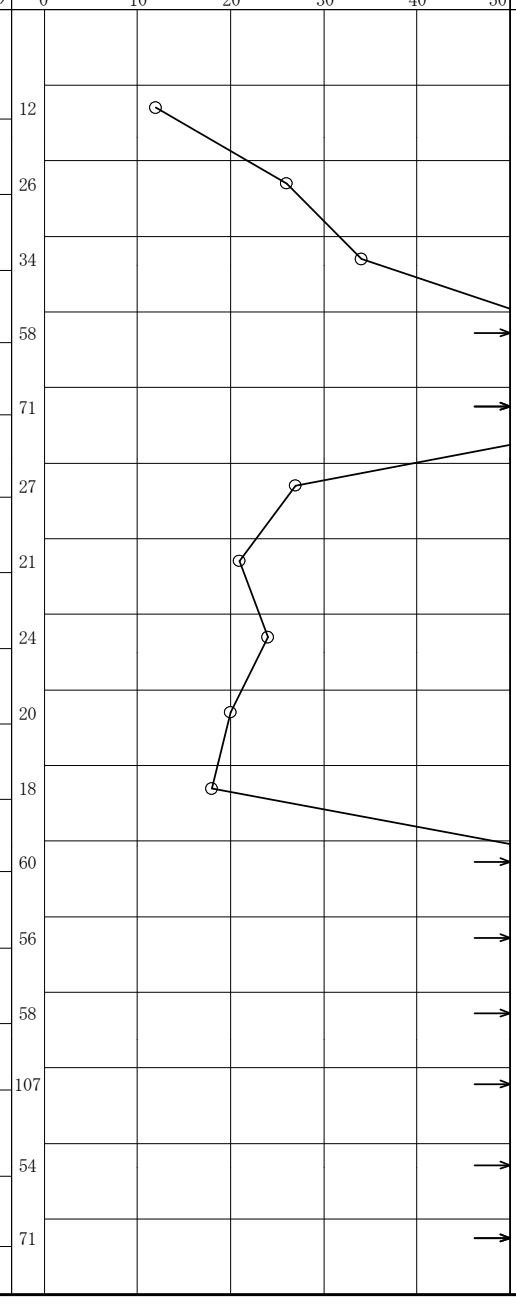
ボーリング名	No.B－2	調査位置	石原三丁目27番地			北緯	36° 9’ 03.0”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 6月 21日 ～ 3年 6月 23日	東経	139° 22’ 46.9”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H=30.485m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	16.36m								

試錐機	東邦地下工機製 D0－D	ハンマー落下用具	半自動落下型（野帳記入）
エンジン	ヤンマー製 NFAD8	ポンプ	東邦地下工機製 BG－3C

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	28.99	1.50	1.50		埋土(礫混じり砂質粘土)	暗褐		硬い	礫混じり砂質粘土主体の埋土。 コンクリートガラやレンガ片を混入する。 粘り気は少なく，湿り気も少ない。 礫径はφ3～40mmを主体とし，礫径φ100mm以上の礫を点在する。	
2	28.19	0.80	2.30		礫混じり砂	暗褐			細～中砂を主体とする。 水気は少ない。 礫径φ2～30mmの礫を混入する。	
3					玉石混じり砂礫	暗灰褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100mm程度の亜円礫を混入する。 G.L.-9.50m～-10.70m間で砂分が増加する。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	
4										
5										6/21
6										
7										
8										
9										
10	19.79	8.40	10.70							
11					玉石混じり砂礫	暗灰褐	非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100mm程度の亜円礫を混入する。 上部礫層に比べ礫間が締まっている。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	
12										
13										6/22
14										
15										
16	14.13	5.66	16.36							6/23

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	4	4	4	12／30	12
1.45 2.15	6	10	10	26／30	26
2.45 3.15	11	11	12	34／30	34
3.45 4.15	13	21	16／6	50／26	58
4.41 5.15	22	24	4／1	50／21	71
5.36 6.15	9	10	8	27／30	27
6.45 7.15	7	7	7	21／30	21
7.45 8.15	10	6	8	24／30	24
8.45 9.15	6	7	7	20／30	20
9.45 10.15	6	6	6	18／30	18
10.45 11.15	19	22	9／5	50／25	60
11.40 12.15	17	18	15／7	50／27	56
12.42 13.15	19	20	11／6	50／26	58
13.41 14.15	33	17／4		50／14	107
14.29 15.15	18	17	15／8	50／28	54
15.43 16.15	26	21	3／1	50／21	71
16.36					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日

ボーリング柱状図

調査名	子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託	ボーリングNo	B－3
事業・工事名		シートNo	

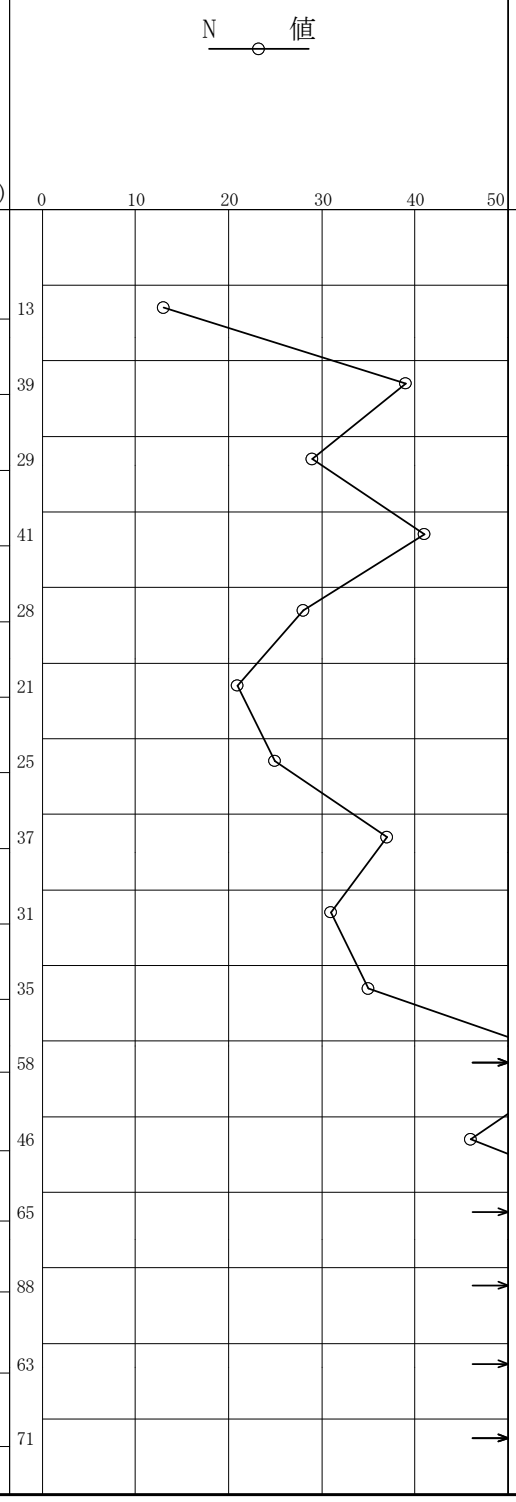
ボーリング名	No.B－3	調査位置	石原三丁目27番地			北緯	36° 9’ 02.6”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 7月 12日 ～ 3年 7月 14日	東経	139° 22’ 44.1”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H=30.145m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	16.36m								

試錐機	東邦地下工機製 D0－D	ハンマー落下用具	半自動落下型（野帳記入）
エンジン	ヤンマー製 NFAD8	ポンプ	東邦地下工機製 BG－3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	28.50	1.65	1.65		埋土(礫混じり砂質粘土)	暗褐		硬い	礫混じり砂質粘土主体の埋土。 コンクリートガラやレンガ片を混入する。 粘り気は少なく，湿り気も少ない。 礫径はφ3～40mmを主体とし，礫径φ100mm以上の礫を点在する。	
2～10	20.15	8.35	10.00		玉石混じり砂礫	暗灰褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100mm程度の亜円礫を混入する。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	7／12
10～16	13.79	6.36	16.36		玉石混じり砂礫	暗灰褐	密な～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100mm程度の亜円礫を混入する。 上部礫層に比べ礫間が締まっている。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	7／13 7／14

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	4	4	5	13／30	13
1.45～2.15	10	13	16	39／30	39
2.45～3.15	9	9	11	29／30	29
3.45～4.15	15	16	10	41／30	41
4.45～5.15	8	7	13	28／30	28
5.45～6.15	5	7	9	21／30	21
6.45～7.15	7	7	11	25／30	25
7.45～8.15	14	12	11	37／30	37
8.45～9.15	10	11	10	31／30	31
9.45～10.15	13	13	9	35／30	35
10.45～11.15	20	18	12／6	50／26	58
11.41～12.15	11	18	17	46／30	46
12.45～13.15	25	17	8／3	50／23	65
13.38～14.15	31	19／7		50／17	88
14.32～15.15	16	21	13／4	50／24	63
15.39～16.15	22	18	10／1	50／21	71
16.36					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日

ボーリング柱状図

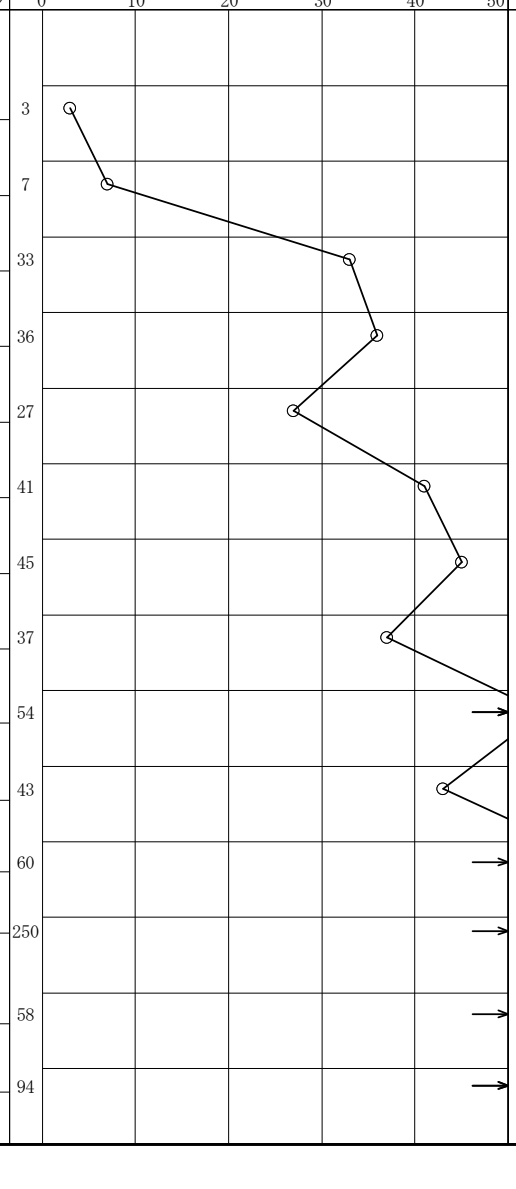
調査名	子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託	ボーリングNo	B－4
事業・工事名		シートNo	

ボーリング名	No.B－4	調査位置	石原三丁目27番地			北緯	36° 9’ 04.8”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 6月 24日 ～ 3年 6月 28日	東経	139° 22’ 44.8”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H=30.121m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機：東邦地下工機製 D0－D / ハンマー落下用具：半自動落下型（野帳記入）
総掘進長	14.31m								エンジン：ヤンマー製 NFAD8 / ポンプ：東邦地下工機製 BG－3C

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2	27.67	2.45	2.45		埋土(礫混じり砂質粘土)	暗褐		軟らかい～中位	礫混じり砂質粘土主体の埋土。全体に少量のシルトを混入する。コンクリートガラやレンガ片を混入する。粘り気，湿り気ともに中位。礫径はφ3～40mmを主体とし，礫径φ100mm以上の礫を点在する。	
3 4 5 6 7 8 9	21.12	6.55	9.00		玉石混じり砂礫	暗灰褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。礫間は細～粗砂を充填する。水気は中位～多い。全体に礫径φ100mm程度の亜円礫を混入する。全体に逸水が激しい。孔内壁面の崩壊著しい。	6/24
10 11 12 13 14	15.81	5.31	14.31		玉石混じり砂礫	暗灰褐	密な～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。礫間は細～粗砂を充填する。水気は中位～多い。全体に礫径φ100mm程度の亜円礫を混入する。上部礫層に比べ礫間が締まっている。全体に逸水が激しい。孔内壁面の崩壊著しい。	6/25 6/28

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	1	3／30	3
1.45 2.15	1	2	4	7／30	7
2.45 3.15	9	13	11	33／30	33
3.45 4.15	7	18	11	36／30	36
4.45 5.15	11	8	8	27／30	27
5.45 6.15	13	12	16	41／30	41
6.45 7.15	17	14	14	45／30	45
7.45 8.15	14	10	13	37／30	37
8.45 9.15	16	17	17／8	50／28	54
9.43 10.15	18	11	14	43／30	43
10.45 11.15	19	20	11／5	50／25	60
11.40 12.15	50／6			50／6	250
12.21 13.15	14	21	15／6	50／26	58
13.41 14.15	21	29／6		50／16	94
14.31					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日

ボーリング柱状図

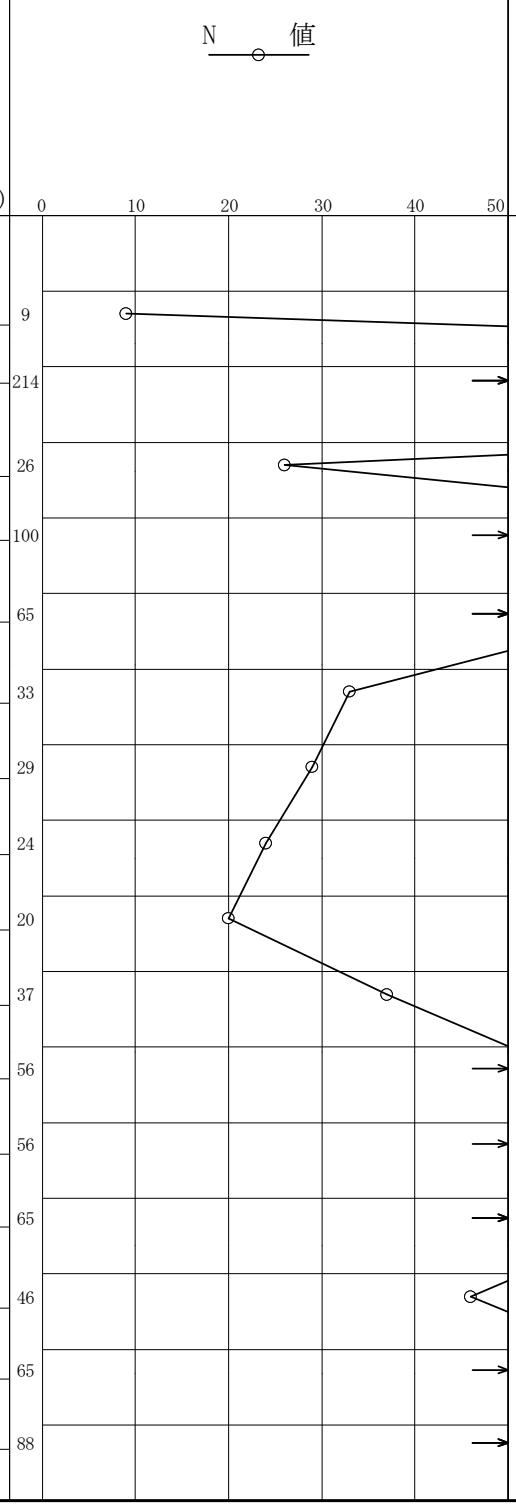
調査名	子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託	ボーリングNo	B－5
事業・工事名		シートNo	

ボーリング名	No.B－5	調査位置	石原三丁目27番地			北緯	36° 9’ 06.3”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 6月 29日 ～ 3年 7月 6日	東経	139° 22’ 43.4”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H=30.202m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機：東邦地下工機製 D0－D / ハンマー落下用具：半自動落下型（野帳記入）
総掘進長	16.32m								エンジン：ヤンマー製 NFAD8 / ポンプ：東邦地下工機製 BG－3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
			28.50		埋土（礫混じり砂質粘土）	黒褐		硬い	礫混じり砂質粘土主体の埋土。 全体に少量のシルトを混入する。 全体にコンクリートガラやレンガ片を混入する。 粘り気は少なく，湿り気も少ない。 礫径はφ3～40mmを主体とし，礫径φ100mm以上の礫を点在する。	
	20.20	8.30	10.00		玉石混じり砂礫	灰褐～暗灰褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100m程度の亜円礫を混入する。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	6/29 6/30
	13.88	6.32	16.32		玉石混じり砂礫	暗灰褐	密な～非常に密な		礫径φ3～40mmの亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100m程度の亜円礫を混入する。 上部礫層に比べ礫間が締まっている。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	7/5 7/6

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	3	3	3	9/30	9
1.45 – 2.15	50/7			50/7	214
2.22 – 3.15	9	10	7	26/30	26
3.45 – 4.15	11	39/5		50/15	100
4.30 – 5.15	22	16	12/3	50/23	65
5.38 – 6.15	10	15	8	33/30	33
6.45 – 7.15	7	9	13	29/30	29
7.45 – 8.15	5	12	7	24/30	24
8.45 – 9.15	6	7	7	20/30	20
9.45 – 10.15	14	11	12	37/30	37
10.45 – 11.15	14	16	20/7	50/27	56
11.42 – 12.15	16	18	16/7	50/27	56
12.42 – 13.15	22	21	7/3	50/23	65
13.38 – 14.15	13	16	17	46/30	46
14.45 – 15.15	22	22	8/4	52/24	65
15.39 – 16.15	24	26/7		50/17	88
16.32					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日

ボーリング柱状図

調査名	子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託
事業・工事名	

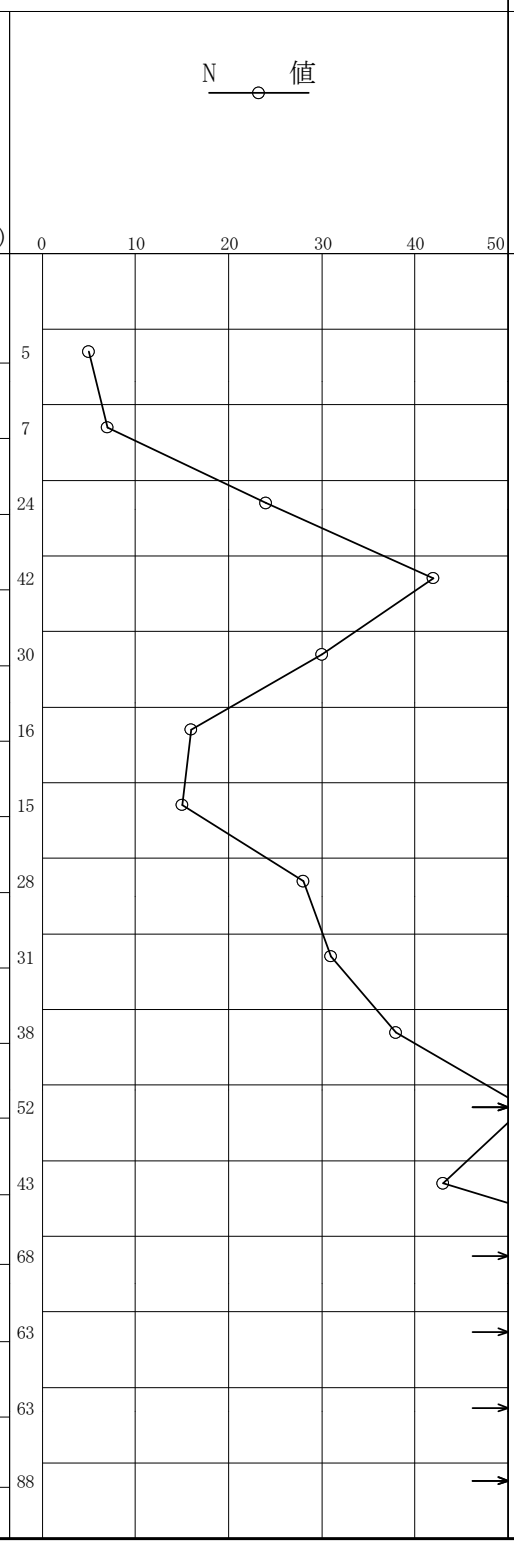
ボーリングNo	B	-	6							

シートNo

ボーリング名	No.B-6	調査位置	石原三丁目27番地						北緯	36° 9’ 06.0”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 7月 15日 ～ 3年 7月 16日				東経	139° 22’ 46.9”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]		ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H=30.014m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製 D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下型（野帳記入）
総掘進長	16.32m								エンジン	ヤンマー製 NFAD8	ポンプ	東邦地下工機製 BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1					埋土(礫混じり砂質粘土)	暗褐		中位	礫混じり砂質粘土主体の埋土。コンクリートガラやレンガ片を混入する。粘り気は少なく，湿り気も少ない。礫径はφ3～40㎜を主体とし，礫径φ100㎜以上の礫を点在する。	
2	27.61	2.40	2.40							
3	26.91	0.70	3.10		礫混り砂	暗褐			細～中砂を主体とする。水気は中位。礫径φ2～30㎜の礫を混入する。	
4					玉石混じり砂礫	暗褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40㎜の亜角礫を主体とする。礫間は細～粗砂を充填する。水気は中位～多い。全体に礫径φ100㎜程度の亜円礫を混入する。全体に逸水が激しい。孔内壁面の崩壊著しい。	
5										
6										
7										
8										
9										
10	20.01	6.90	10.00							7/15
11					玉石混じり砂礫	暗褐	密な～非常に密な		礫径φ3～40㎜の亜角礫を主体とする。礫間は細～粗砂を充填する。水気は中位～多い。全体に礫径φ100㎜程度の亜円礫を混入する。上部礫層に比べ礫間が締まっている。全体に逸水が激しい。孔内壁面の崩壊著しい。	
12										
13										
14										
15										
16	13.69	6.32	16.32							7/16

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	2	5/30	5
1.45 / 2.15	2	2	3	7/30	7
2.45 / 3.15	6	7	11	24/30	24
3.45 / 4.15	18	14	10	42/30	42
4.45 / 5.15	11	11	8	30/30	30
5.45 / 6.15	5	7	4	16/30	16
6.45 / 7.15	5	5	5	15/30	15
7.45 / 8.15	10	8	10	28/30	28
8.45 / 9.15	13	9	9	31/30	31
9.45 / 10.15	12	10	16	38/30	38
10.45 / 11.15	14	17	19/9	50/29	52
11.44 / 12.15	13	16	14	43/30	43
12.45 / 13.15	19	21	10/2	50/22	68
13.37 / 14.15	6	20	24/4	50/24	63
14.39 / 15.15	18	18	14/4	50/24	63
15.39 / 16.15	26	24/7		50/17	88
16.32					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日

ボーリング柱状図

調査名	子育て支援・保健拠点施設整備地質調査業務委託
事業・工事名	

ボーリングNo	B	-	7							

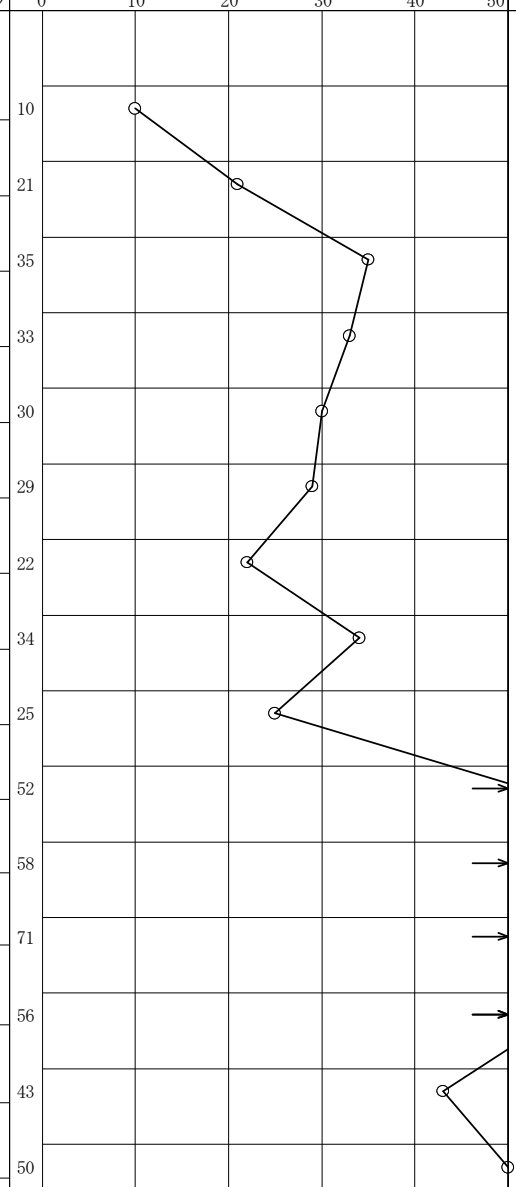
シートNo

ボーリング名	No.B-7	調査位置	石原三丁目27番地						北緯	36° 9’ 04.8”
発注機関	[redacted]			調査期間	令和 3年 6月 16日 ～ 3年 6月 18日				東経	139° 22’ 48.0”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]		ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	H= 29.936m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製 D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下型（野帳記入）
総掘進長	15.45m								エンジン	ヤンマー製 NFAD8	ポンプ	東邦地下工機製 BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	28.74	1.20	1.20		埋土（礫混じり砂質粘土）	黒褐			礫混じり砂質粘土主体の埋土。 コンクリートガラやレンガ片を混入する。 粘り気は少なく，湿り気も少ない。 礫径はφ3～40㎜を主体とし，礫径φ100㎜以上の礫を点在する。	
2	27.44	1.30	2.50		礫混じり砂	黒褐	中位		細～中砂を主体とする。 水気は少ない。 礫径φ2～30㎜の礫を混入する。	6/16
3					玉石混じり砂礫	黒褐	中位～非常に密な		礫径φ3～40㎜の亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100㎜程度の亜円礫を混入する。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	
4										
5										
6										
7										
8										
9										6/17
10	19.94	7.50	10.00		玉石混じり砂礫	黒褐	密な～非常に密な		礫径φ3～40㎜の亜角礫を主体とする。 礫間は細～粗砂を充填する。 水気は中位～多い。 全体に礫径φ100㎜程度の亜円礫を混入する。 上部礫層に比べ礫間が締まっている。 全体に逸水が激しい。 孔内壁面の崩壊著しい。	
11										
12										
13										
14										
15	14.49	5.45	15.45							6/18

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	3	4	3	10/30	10
1.45 / 2.15	6	6	9	21/30	21
2.45 / 3.15	8	11	16	35/30	35
3.45 / 4.15	10	15	8	33/30	33
4.45 / 5.15	9	10	11	30/30	30
5.45 / 6.15	13	8	8	29/30	29
6.45 / 7.15	7	7	8	22/30	22
7.45 / 8.15	9	10	15	34/30	34
8.45 / 9.15	8	8	9	25/30	25
9.45 / 10.15	12	20	18/9	50/29	52
10.44 / 11.15	18	14	18/6	50/26	58
11.41 / 12.15	12	28	10/1	50/21	71
12.36 / 13.15	21	13	16/7	50/27	56
13.42 / 14.15	19	14	10	43/30	43
14.45 / 15.15	14	17	19	50/30	50
15.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（ ）

掘進月日